

# 夏越祭

(七月二十九日)



昨年の茅の輪をくぐる善男、善女

# 岡田宮

— (宝永四年) 一七〇七年 貝原益軒書 —

## 第21号

平成8年7月吉日

発行 岡田宮社務所

北九州市八幡西区岡田町1番1号

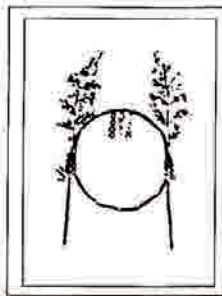
郵便番号 806

電話 (093) 621-1898

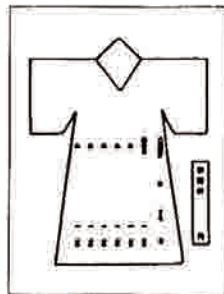
FAX (093) 621-5330

産土  
森神

守護



形代 (表)



形代 (裏)

夏越の大祓神事を七月二十九日午後六時より繰り行います。社頭に茅の輪を設け、その茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄とを招来するという古式に則った夏越祭を厳修致します。ご参拝の方は左記の形代に御家族の住所、氏名、年令を書いて、各自の息

を吹きかけ初穂料を納めお参り下さい。ご参拝の方には「お札」と「茅」を授与致しますので、魔除として、玄関に奉斎して下さい。当日、お参り出来ない方は前もって社務所で形代をおあずかり致します。

目に見えぬ神にむかひてはぢざるは人の心のまことなりけり

大御心  
明治天皇御製  
神祇

# 神社総代研修会



3月27日晴  
末益友之助総代会長以下50名を乗せたバスは山口県萩市鎮座の松陰神社に向けて出発。

神社に到着後、正式参拝。  
当日は宮司様が不在で、祢宜様の社頭講話を拝聴。

明治維新のさきがけとなった吉田松陰先生のお話を頂きました。

帰りには萩焼の窯元、カマボコ工場等を見学しました。

今回も多く神社関係の研修をしてまいりましたので、今後の神社運営に反映していきたいと思えます。



## 郷土地名考 (2)

### 馬場山 (はばやま)

遠賀郡誌に本村、茶屋原、原、緑、池田をふくむ。香月地区は先史時代から古代中世遺跡が集中しており、弥生期の馬場山遺跡も1937年、北九州直方道路建設のため緊急発掘調査が行われた。

地名は中世香月荘のとき馬場があったことに由来する。近郊住宅地として新興の市街地。

### 茶屋原 (ちややのはら)

チャヤノバル、大字馬場山の内。太閤秀吉は千利休に茶を学び、遠征の途次でも陣中しばしば茶会を開いている。茶をたしなむ、茶器を集めるのは当時のステータスシンボルだった。

茶屋原も秀吉が朝鮮出兵の折、ここに立ち寄り茶室をしつらえたという伝承による。そのときに水を汲んだ方一間の池を大池と呼んだが、今は姿を消して小字で残る。

### 野面 (のぶ)

野夫、野母とも書いてノブといっていた。野は野原のノ。ブは接尾語フの類かも。芝生のフ、植生の宿のフである。

中世野面荘、麻生の所領だった。近世、蓮根を名物として産出したと筑前統風土記。もともと鞍手郡に属していたが1889年(明治22)の町村合併で木屋瀬村。民俗伝承に「野面の盆踊り」がある。

芦屋歌舞伎で知られる役者から「夏はほたる」「うつつ白波」「奴」などの名作を習い、これを元に盆踊りを生み出したという。8月13日から4日間、浴衣に編笠、頬かむり、扇子を持った装束で舞う。

野面に隣接する大字笹田の小字七田は1981年(昭和56)解同、同和会幹部による空前の土地転がし疑惑の発端となったところで、小倉タイムス記者が最初に摘発した当時は、浦田池のほとりにボットンと同和住宅が建っていた。

### 石坂 (いっさか)

畑貯水地の下で国道200号の南側石坂、東側東石坂に分かれている。黒崎から木屋瀬に通じる旧街道にあたり、小峯から陶先八丁の「アケ坂」を越え、「中ノ谷」という難所を過ぎ、畑貯水地から流れる黒川に至る急な坂道は第三紀層の岩石が露頭し、文字通り石坂といった。参勤交代の大名もここでは轡を降りて歩かねばならなかった。

やれやれくたびれたと言うところに、立場茶屋があり、大きな銀香があるので銀香屋敷。白壁土蔵作りの古い屋敷の庭には今も亭々と大銀香が勢えている。そこからちよつと下った裏山に那奉行各務三大夫の墓がある。藩政時代の街道は幅二間はかりの急な坂道に面影を残している。

黒川には大根川の伝説。老婆が大根を洗っているところに、旅の僧が一本の布施を頼んだ。けちな老婆は断った。するとそれ以来、大根を洗う季節になると水が濁れた。旅の僧は弘法大師だったという。

七五三

七五三祭は、子どもの成育にともない折り目、折り目に神社にお参りして、いつそその息災成長を祈る行事です。

三歳の祝いを髪置、五歳の祝いを袴着、七歳の祝いを紐落などと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行われた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行われます。

なお、平成八年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそろいでお参り下さい。

記

- 三歳 平成六年生
- 五歳 平成四年生
- 七歳 平成二年生

※年齢はかぞえ年です。

※毎日午前九時より午後五時まで

受付をしています。



神社なせ問答

△その21▽



◆氏神さまってどんな神さまですか。

氏神さまは、皆さんが住んでいる地域をお守り下さる神様。神社です。古くは同じ一族。氏族がお祀りしていた神さまを氏神と申し上げましたが、のちに主として地域の守り神。鎮守さまを意味するようになりました。氏神さまに守られている地域の人々すべてを氏神といい、たとえば山田町一丁目は山田神社の氏神というように住所によって氏神・氏子の関係が定まっています。氏子の代表として神社のお世話をする方を氏子総代といいます。

◆氏神さまと地域との関係について教えてください。

春や秋などに行われる氏神さまのお祭りはもともと、お米をはじめとした五穀の豊作や大漁などを祈り、また感謝する意味があります。私たち日本人の祖先は、氏神さまへの感謝と祈りを生活の中心に据え、いろいろな役目を

上々颯風

ライブコンサート

5月16日(木)の午後の7時より映画やテレビ番組、CMのテーマソングでおなじみの上々颯風が、面白ライブ道中96のコンサートツアーの一環

分担しながら毎年のお祭りを行うことで村。地域共同体の和を保ち、村づくりに地域の発展のために努力してきたのです。

◆氏神さまは私たちの生活とどんな関係があるのでしょうか。

神輿や山車が繰り出して大勢の人々で賑わうお祭りや新年の初詣、赤ちゃんの初宮参りや七五三、成人式や結婚式などのお祝い事、厄除などの祈願、新車のお祓い、地鎮祭、上棟祭など、一年を通じて、さらに一生を通じて氏神さまとの関係は多種多様です。

◆お神札はどのように受けるのですか。

氏神さまを通じて伊勢の神宮のお神札と氏神さまのお神札を受けることができます。くわしくは氏神さまの神職(神主さん)にお尋ね下さい。

として、熊本の八千代座、福岡の嘉穂劇場にさがけて、岡田宮の神殿前の特設ステージで2時間にわたるライブを行いました。

当日はお天気にもめぐまれ、約600名の入場者はビールを飲んだり、おでんを食べたりされて楽しいひとときをすごされたようです。



# アジアの正しい歴史を

加瀬 英 明 評論家

今年五月には、戦勝国である連合国が日本を「裁いた」いわゆる極東国際軍事裁判が開廷してから、半世紀を迎える。極東国際軍事裁判は、東京裁判として知られているが、今日では勝者による裁判を装った報復であったことが明らかになっている。これは、旧連合国の名譽を穢したものだ。

国家の正不正は、戦争の勝敗の枠の外にある。それなのに、先の戦争の記憶が遠ざかるにしたがって、日本において細川内閣以降、旧連合国や、韓国に対して詫びるのが習い性になったのに現れているように、至んだ歴史観が力を増しているのは、戦後、歳月を重ねるほどに日本が正氣を失うようになったことを示している。

これは一つには、政治家と国民の大多数がアジア史について、まったく不勉強であることに因っている。紙面が限られているから、二つだけ例としてあげよう。昨年八月、村山首相がイギリスのメジャー首相へ、戦時中に日本がイギリス人捕虜に加えた残虐行為について許しを乞う書簡を送った。

開戦後、日本軍がマレー半島とビルマを開放すると、インドではガンジーが率いる国民会議派が、一九四二年八月にイギリスのインドからの「即時撤退」を要求して、全国にわたって決起した。「クイット・インド」(インドから出てゆけ)運動として知られる。

イギリスは独立要求デモを容赦なく鎮圧し、一千人以上が射殺された。全国で国民

会議派の家が焼かれ、婦女が暴行された。数万人が逮捕され、拷問を受けた。この時、ガンジーと六十三年連れ添った夫人と、長年寵愛した秘書が、収容所で死んでいる。

昨年十月に、韓国の金泳三大統領が「朝鮮半島分断の原因は日本にある」と述べた。河野外相が三十八度線を決めたのについて、日本に「直接的な責任はない」と思ふ」と釈明したのに対して、韓国外交部が「分断の直接的責任が日本にないとするのは、歴史を糊塗し、歪曲しようとする低意をあらわにしたものだ」と反論した。

今日、朝鮮半島が分断されている責任は、日本にはない。中国にある。

昭和二十五年(一九五〇)年六月に、北朝鮮が韓国を侵略したために、朝鮮戦争が始まった。緒戦で国連軍は苦戦を強いられ、九月にマッカーサー元帥が仁川上陸作戦に成功し、国連軍は十月三十日に鴨綠江岸にまで進出した。この前日、李承晩大統領がピョンヤンにおいて、「韓国全土の解放が目前に迫った」と演説している。

ところが、この直後に中国の人民解放軍が朝鮮半島に大挙して乱入したために、国連軍は潰走することを強いられた。もし、あの時に中国が介入しなかったなら、今日、韓国は統一国家となっていたはずである。

いわゆる東京裁判の五十年を契機にして、日本の汚名を濯ぎ、アジアの歴史を学ぶ運動を興したいと思う。



◎もうすぐ終戦記念日です。先日新聞に載っていた記事です。卵にみる今昔1個を分け：

主婦 永田 千鶴子

私の幼少のころ、卵一個を「どんぶり」に入れて混ぜ、きょうだい何人も食べました。たが、風邪をひくと一人に一個。病気になるのもうれしかったです。でも、戦争が激しくなると、卵は夢のまた夢でした。

数年前のある日、九十歳近いしゅうとめが鹿児島から私の家に遊びに来ました。茶わん蒸しを出したら、じつと見て「卵は断っている」といいます。昭和十九年、二女が亡くなる直前、卵を食わたいとせがむので、あちこち駆け回り回ったが、手に入らず食べさせることがかなわなかったから、自分も口にしないのだ、というのです。

私はじんと胸が熱くなって、「あの当時から月日もたっています。栄養をとって長生きされることが、二女の供養になりますよ」と説得。やつと食べてもらいましたが、感慨深そうでした。

今は、朝食に厚い厚い卵焼き。高校生が勉強に疲れ、ゆで卵二個をパシッ。コレステロールはいいの、と変な心配も。私はきょうだいで分け合って食べた卵ご飯が一番おいしかったです。

楽しい雰囲気・明るいスタジオ

## (株) 有川写真館

証明写真から記念写真まで  
各種お撮りします。

岡田宮内にスタジオ完備

☎ 0120~622~080



北九州プリンスホテル、ペペ2F  
インドアプール前にオープン

各種衣裳取りそろえております。  
☎ 0120~620~753